

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 すきっぷ豊岡			
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日 ～ 令和7年2月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	令和7年2月15日 ～ 令和7年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	music & dance	1つの事を形にしていき、発表の場を設ける。始まりと終わりで挨拶をしっかりとさせていく。リズム感の形成を促すためにビートに合わせて運動する。協調運動を意識し手足を同時に動かす。	計画性を持ち取り組んでいく、全員で目標を共有し進めるために月に1度日々の進捗をまとめて共有する。楽しんで取り組んでもらうために様々な曲で踊りを取り組み、表情の豊かさなどに繋げる。
2	研修など学ぶ場が多い。災害時の訓練や感染症、危機管理マニュアルなどがわかりやすく策定されている。	研修で学んだことはどんなことが事務所に張り出しをして月に1度振り返りを行っている、必要なマニュアルが全て揃えられている、研修後にはレポートを提出している。	学んだことを実践できているのか振り返るだけではなく、自己評価を定期的に行う。
3	子どもの特性のせいにはせず、集団活動に参加出来るように取り組む。	視覚的配慮など子どもの状況に合わせている、本人の思いをしっかりと聞いて進めている、出来たときにはたくさん褒めている、子どもの状況を情報共有している。	個人個人の状況に合わせて声の掛け方、関わり方を工夫し、良い方法を模索し続けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関わり方や言葉遣いに、適切ではない様子が見られていた。	「お前」という言葉をつかってしまうなど、慣れなどから関わり方言葉遣いが雑になってしまう場面があった。自分の感覚と社会の感覚のズレがある。周りが聞いたときにどう思うか考えが甘い。	なれ合いではなく、スタッフ間で声を掛け合い適切な言葉遣いや関わりが出来るようにしていく、自分ではなく社会を基準に感覚を合わせて考えて発言する、朝会などで関わりや言葉遣いについて、そのままにするのではなく、良くなかったことは言い合う。
2	保護者へのオープンな運営、室内の見学や関わり方を見る機会が少ない。	見学などは可能だが、発信は積極的にはしていなかった。	見学はいつでも受け付けていることを発信していく。また体育教室の見学については、集中しきれず怪我に繋がってしまう恐れもあるので、15分程の短時間の見学など時間設定をして行っていく。
3	活動内容の発案など、発信者にかたよりがある。	意見を出しやすい環境を作っていない。意見に対し否定的な返しをしてしまうことが多く職員個々の発信意欲をなくしてしまっている。	まずは必ず声をかけあう。一人だけではなくみんなで共有する、人の話や意見を一度受け入れてから話す。聞いてすぐに否定しないルールを設ける。